

「日々の理科」(第 3023 号) 2022, 11, 16

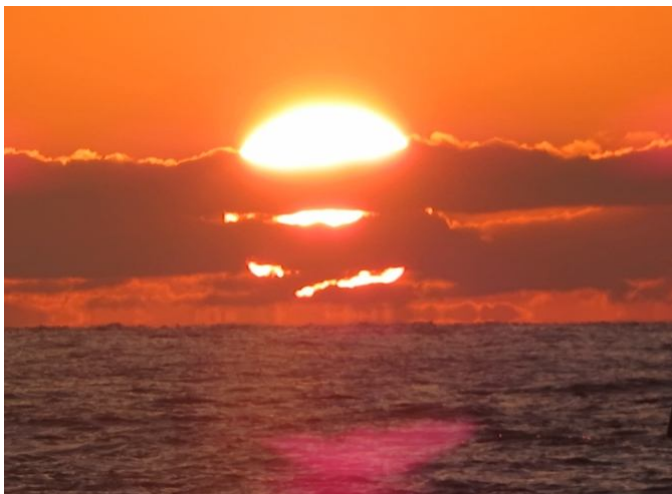
「秋の東北鉄道旅行 (23)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

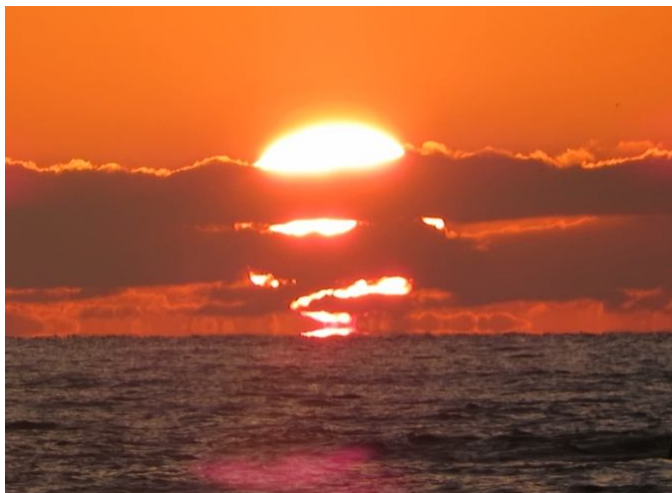
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

日没…特に水平線に沈む太陽を見るのは久しぶりである。計算上は太陽(光球)の下が水平線に接してから、完全に沈むのに約 2 分だ。かつて、NHK の大河ドラマ「黄金の日々」のオープニングは、最初から最後まで夕陽が沈むシーンだけだった。テーマ曲も印象的で、あのシーンを思い出した。



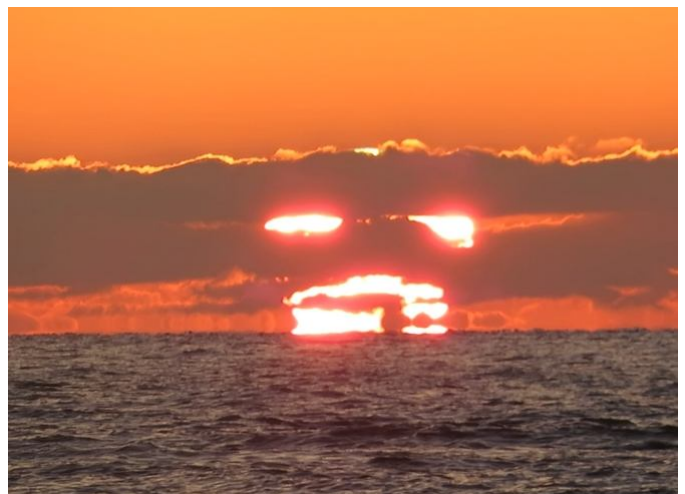
太陽のように見た目の面積がある天体は、「大気差」という現象で、やや上下につぶれて見える。しかしこの日の太陽は、水平線に接する寸前に、やや縦方向に伸びて見えた。また、肉眼では気づかなかったが、写真では、水平線上に蜃気楼のような「縦筋」がたくさん写っているのもわかる。



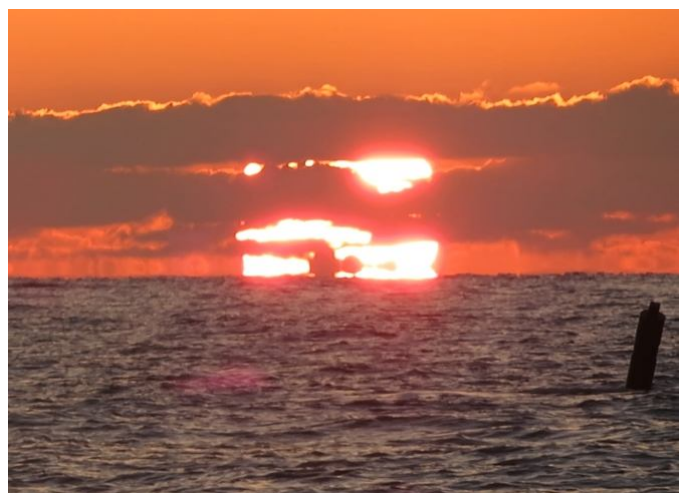
太陽が水平線に接する数秒前、水平線側から「幻の太陽」が昇ってきた。やはり蜃気楼のようだ。



更に数秒後、沈む「本物の太陽」と昇る「幻の太陽」が一体化した。



一体化した太陽は、少し雲に隠れていることもあって、まるで水爆実験の「キノコ雲」のように見えた。



ついに「四角い太陽」が出現した。北海道で一度見たことがあるが、今回で二度目だ。水平線付近の視線方向の「濃い大気層」が、沈みかけた太陽(光球)を、下方向に引き伸ばしたのだろう。雲が邪魔しなければ、もっと劇的な光景になったにちがいない。